



自分大すき
友達大すき
ふるさと大すき

宮小の子

令和5年度 栗原市立宮野小学校
校長室だより No.3
2023/6/1
発行者 小松 英明

創立150周年記念大運動会 雑感

去る5月20日(土)、宮野小学校創立150周年記念大運動会が開催されました。“普通の”運動会ができたのは、実に3年ぶりのことです。

以前の運動会、開会式の「運動会の歌」では、紅白が声の大きさを競っていました。でも、この3年間は、歌を歌うことができませんでした。全校で開会式の練習を行ったときのことで、運動会の歌の練習をはじめたとき、子供たちは声を出しませんでした。つぶやくように運動会の歌を歌っていました。その時の様子からは、歌詞が分からなくて小さな声になったのではなく、大きな声を出していいのかわからない不安で大きな声を出せない様子がかげがえしました。3年間のコロナの影響の大きさを感じました。しかし、そこで立ち止まってはいただけません。3年ぶりの制約無しの運動会です。子供たちにも“普通の”運動会を存分に味わってもらわなくてはなりません。気づくと立場もわきまえずに前に出て、大きな声で歌いながら、子供たちに「もっと、もっと、大きな声で歌っていいんだ。」とアジテーションしている自分がいました。子供たちは、すぐに応えてくれました。「こんなに声を出してもいいの？」と不安な表情を見せながらもだんだんと大きな声を出してくれました。2回目、3回目、だんだんと声が大きくなっていきました。その結果は、運動会の本番で見せてくれたとおりです。70人とは思えない大きな声で運動会を盛り上げてくれました。子供たちの大きな歌声を聞きながら、“普通の”運動会ができる幸せを感じました。



創立150周年記念大運動会ですから、特別な種目もありました。実行委員会の皆さんが考えてくださった「宮小横断ウルトラクイズ」です。子供はもちろん、保護者、そして多くの地域の皆さんと一緒にクイズを楽しめて、とても楽しい時間となりました。宮野小学校に関する問題7問の○×クイズでした。私が一番印象に残った問題は、宮野小学校の学校教育目標に関する問題です。「自分大すき 友達大すき ふるさと大すき 宮小の子」の問題です。誰も迷うことなく、正解の方に移動していました。子供も保護者も地域の方も宮野小学校の学校教育目標を知っています。とてもすばらしいことだと思います。宮野小学校の先輩方が考えて設定してくれたこの目標、宮野の地域にしっかり浸透したことを実感することができました。



150年の歴史を持つ宮野小学校。本当に有り難いことだと思います。地域の方々が支援を続けてくれなければ、150年もの長い間、続くことはなかったことでしょう。150周年を迎えることができたのは、地域の方々の支援のおかげだと思います。12月9日(土)には、創立150周年記念式典を開催する予定です。後から実行委員の皆さんから案内されると思いますが、ぜひ皆さんにご参加いただき、一緒に150周年を祝いたいと思います。

みんなに知らせたい

今日の宮小っ子



学校の時計の話

今回は、ちょっと経験豊富な、年配の「宮小っ子」の話を紹介したいと思います。

小職は、令和4年の4月に宮野小学校に赴任してきました。驚かされたことがたくさんありましたが、その一つが「チャイムが鳴らないこと」でした。“普通”の学校では、チャイムが鳴るのは当たり前です。でも、宮小っ子は、時計を見て行動していたのです。ただ、遊びに夢中になると時計を見ずにいることもあります。その時は、淳一先生が、すかさず校庭に向かって、「おっ、ちゃんと時計を見て行動できている人がいるね。いいよ。しっかり行動できているね。」とほめながら、教室に戻るように促してくれていました。だんだんと時計を見て行動する子供が増えてきているのを実感していました。

今年に入り、問題が発生しました。なんと校庭の時計が3分遅れたのです。学校では、チャイムを鳴らすのが当たり前ですから、職員室にチャイムを管理するマスターの時計があります。そのマスターの時計と同期して、各教室の時計や校庭の時計が動きます。本来であれば、職員室のマスターの時計を調整すれば、校庭の時計の時刻が合うはずなのです。しかし、なぜか、校庭の時計だけ3分遅れてしまったのです。

業者に見てもらいました。校庭の時計だけ進めたり遅らせたりするスイッチはないようです。見積もりだと作業に25,000円ほどかかるそうです。作業してもなおる保証はありません。市に予算配当を申請しても予算が付くかも分かりません。先の見えない話です。チャイムの鳴らない学校が自慢の一つでしたが、仕方がないのでチャイムを鳴らしていました。校庭の時計は、3分遅れたままでした。

そこで、動き始めたのが、教務主任の淳一先生、事務の三浦先生、業務員の藤岡さんです。職員室のマスターの時計を操作して、なんとか問題を解決しようとしてくれました。しかし、やはりうまくいきません。校庭を実際の時刻に合わせるためには、マスターの時計を3分進めなくてはなりません。マスターの時計を3分進めてしまうと各教室の時計も3分進んだ時刻を指してしまいます。

「あーでもない」「こーでもない」と試行錯誤が続きます。

そうこうしているうちに新しいアイデアが出されました。「各教室の時計の電源を3分だけ抜いておけばいいんじゃない。」なるほど、そうすれば、マスターの時計は3分進んだままでけど、教室も校庭も正しい時刻を示すようになります。早速3人のベテランの宮小っ子たちは、協力して校舎中の時計を調整してくれました。

職員室のマスターの時計は、3分進んだままですが、チャイムを鳴らさないのですから問題はありません。校庭も教室も正しい時刻を示してくれています。見事、問題解決です。

「3人寄れば、文殊の知恵」ということわざがありますが、文字通りだと感じました。作業を始めるときには、3人の頭になかったアイデアが、試行錯誤やコミュニケーションをすることによって生み出されたのです。まさに相乗効果(シナジー)だと思いました。4月に小職は、「助け合う教師集団が、助け合う子供たちを育てる。私たちが子供たちのよいモデルになりましょう」と話しました。本当にすばらしいモデルを見せてもらいました。力を合わせると問題解決できるんですね。若い現役の「宮小っ子」たちにも分かってほしいと思って紹介させていただきます。